



# 卒業される皆様へ

薬学部同窓会 会長 千葉 佳友



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

この同窓会誌は、卒業式に卒業生へ配布されるとのことでしたので、今回の私からの挨拶は、卒業される皆様へのメッセージとさせていただきます。

卒業生の皆様にとって、大学に入学する前は、卒業までの6年間というのがとてつもなく長い期間に感じられたと思いますが、今振り返ってみると、この6年間というのが、あっという間のことであったように感じられていることと思います。在学中は、先生に怒られたり、理不尽とも言えるような補講の嵐など、色々大変な思いをしてきた方も多いと思います。ただ、いざ卒業するとなると、在学中の全ての出来事や経験がいい思い出として感じられているのではないのでしょうか。

4月からは、いよいよ薬剤師としての生活が始まります。新しい職場には、様々な大学を卒業した方が集まっているので、今は、期待より不安の方が大きいかと思います。

患者さんが、自ら自分を担当する薬剤師を選ぶという「かかりつけ薬剤師」制度が始まっている昨今、今後、薬剤師同士の競争が、ますます激しくなっていくことが予想されています。

そんな皆様に、少しでも自信と勇気を与えられるよう、同窓会誌では、実際に現場で活躍されている先輩方にスポットをあてた特集記事を載せています。

今回の特集では、青森大学薬学部を卒業後、非常に難関と言われている「がん薬物療法認定薬剤師」の資格を取得し、医療現場の第一線で活躍している先輩について紹介しています。ぜひ、特集にも目を通していただき、自分たちの周りには、他の大学を卒業した方々に負けず活躍している先輩方がいるということを知っていただき、今後の励みとしていただけたら幸いです。

最後になりますが、社会人となってからは、学生時代には想像も出来ないような苦難に数多く直面することとなります。もしも、自分1人では到底乗り越えられそうもないと感じた時は、ぜひ同窓生の皆さんを頼ってください。先輩も、同じような経験をしてきた方々ばかりです。皆さんからの相談には、快く応じてくれるはずです。

今後の皆様のご活躍を心より応援しております。



# ご挨拶と近況報告

薬学部長 水野 憲一



薬学部同窓の皆様におかれましては、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

青森大学薬学部同窓会誌をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、同窓会総会や交流会、研修会が開催できない中、同窓会の輪を繋ぐことを目的に昨年、同窓会誌を創刊致しました。今年度は新型コロナウイルス感染症の分類も見直され、来年度は行動の制限が緩和されると予想されます。同窓生の交流の場として、同窓会活動はなくてはならないものと考えておりますので、今後、新しい企画も考えていかなくてはと思います。

薬学部の近況ですが、創刊号でもご報告しました通り、新生薬学部として本年度より稼働しました。その中で、薬学教育センターの活動は今年度は活発でした。センター通信の発行、薬剤師国家試験を控え、不安になっている6年生対象のサロン開設など新しい試みを行なっています。5月には、念願の薬学教育センター専任職員として佐藤真理子さんが着任しました。佐藤さんは青森県薬剤師会にいらしたこともあり、薬剤師のことをよく理解しているだけでなく、指導薬剤師養成ワークショップでもお世話になった方です。2022年度は開催されませんでしたでしたが、来年度はワークショップを開催予定であり、強力な味方となってくれそうです。新生を対象にした合宿、スタートアップキャンプの企画、運営も数多い薬学教育センターの業務の1つです。初めての大学生活で不安な新生が、薬学部に入ってから心構えや薬剤師としての将来について考えたり、またレクリエーションで新生同士や教員との交流を深めることが目的です。新型コロナウイルス感染症の影響で中止になっていましたが、いよいよ来年度は開催する予定です。

ご存知ない方もいらっしゃるかと思いますが、青森大学は、現在、青森キャンパスだけでなく、東京キャンパス、むつキャンパスと3キャンパス体制で展開しています。新型コロナウイルスにより、今では普通に使われるようになった遠隔授業をいち早く取り入れ、総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部の3学部においては、東京にいながら、むつにいながら同様な授業を受けられるだけでなく、3キャンパスを相互に行き来できます。薬学部は実習や早期体験学習などインターラクティブな授業が多いため、青森キャンパスのみとなっていますので、薬学生にも知らない人がいるかもしれません。来年度は、薬学生にも別地キャンパスを体験してもらうために、スタートアップキャンプをむつキャンパスで開催します。

また下山律子先生が5月に急遽退任されることとなりました。今までも人数が少ない実務家教員でありましたが、幸坂先生、盛先生にはご苦勞7月から小倉奈美先生が着任してくださり、幸坂先生、盛先生の良き協力者としてサポートしていただきました。来年度は実務家教員増員を目指します。

また、薬理病態系も欠員の中、齋藤先生、輪島先生、池田先生、三輪先生で1年間頑張ってくれました。こちらの教員も新しく着任する予定です。

学生募集において厳しい状況ではありますが、薬学部教員及び入試課一丸となって、より一層薬剤師育成に向けた教育に邁進していく所存です。同窓会の皆様におかれましても、今後とも何卒青森大学薬学部へのご支援を賜りたく、改めてお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓会のみなさまのご健康とご活躍を祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

# 白衣授与式挙行



金井学長



水野学部長



大きな成果を期待しています!!

1月31日、本学記念ホールにて、令和4年度第3回白衣授与式を挙  
行しました。

学生代表村居友和君へ白衣授与

実務実習へ赴く、5年生35名に真新しい白衣が授与され、金井学長、  
水野学部長からのエールを受け、学生代表村居友和君の宣誓では  
積極的な姿勢と本学の名に恥じぬ態度で実務実習に取り組み、大いに成長してくることを約  
束し、誓いの言葉としました。村居君の4年間の努力の成果を発揮できる喜びが込められた立  
派な宣誓でもありました。



## 学内コンクール受賞者「喜びの声」

### セルフメディケーション小論文コンペ



ハッピー・ドラッグ会長賞 2年 田澤茉歩

この度は、ハッピー・ドラッグ会長賞の表彰をいただき、心より感謝申し上げます。

「短命県返上に薬剤師ができること」というテーマに取り組み、調査を進める中で、地域の薬  
剤師に求められること、できることは本当に多岐に渡ると実感しました。

このテーマは多くの授業でも取り上げられており、地域の健康課題について、級友と共に学び  
をさらに深められることを嬉しく思っています。

薬学部の勉強はインプットが多くなりがちですが、私は、意見を積極的にアウトプットする力  
こそ、これからの薬剤師にとって重要な資質であると考えています。

今後はさらに熱意を持って知識を磨き、来年もぜひこのコンペに挑戦したいと思います。



## 第28回読書感想文コンクール

金賞 5年 蛭子まどか

読書感想文コンクールへの応募は今回で2回目でした。昨年度の実績では銅賞、そして今年  
度は金賞を受賞することができました。応募作品の中では、自分とは異なる価値観を受け入れ  
る寛容さや様々な体験から培われる語彙力は人生において非常に大切なものであるといった内  
容を述べました。

初回の応募で金賞を受賞できていたら、今のこの喜びを実感することはなかったと思います。  
現状では不十分だと自らを奮い立たせる向上心や気づきが自分自身を成長させてくれるように  
感じました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

# 新任教員紹介

## 卒業生へのエール

医療薬学 講師 小倉 奈美



徳島大学薬学部を卒業後、徳島のドラッグストアや調剤薬局で管理薬剤師として医薬品管理や薬局の環境整備等に取り組んできました。また、他職種との積極的な交流、連携を進める中で、在宅医療に携わることもできました。そこでの知識や経験を授業に生かし、学生の積極性を引き出し個々の成長を促せる授業形式を模索しながら、共に成長したいと考えていますのでよろしくお願いします。

さて、卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様はこれまで学業や実習、研究に懸命に取り組んできました。今後様々な職域で活躍される皆様ですが、どのような道に進もうとも、本学での学びはこれからの人生の糧となるでしょう。青森大学卒業生としての誇りを胸に精一杯、でもたまにはホッと一息つきながら、充実した人生を過ごしてください。

皆様と触れ合う機会はわずかでしたが、皆様の華々しい活躍と、そして生き生きと笑顔で過ごす毎日を心よりご祈念申し上げます。

## 第10回高校生科学研究コンテスト開催

実行委員会委員長 水野憲一

2013年に開催されてから今年で10年目を迎えました。今回は9校141名の生徒が参加し、発表題数は38件。物理、数学、天文、ゲーム、工学系をソフトウェア情報学部、生物、化学、農学、食品、環境系を薬学部が審査しました。

### 【最優秀賞】

八戸高等学校「サカマキガイの生態についての研究」

「生態観察への取組みに工夫を凝らし、検証していく姿勢」「仮説とは異なる結果が出た場合でもしっかりと考察し、新しい知見を得ることができており、非常に良い研究」などが受賞理由となりました。

### 【優秀賞】

五所川原高等学校「鮮やかな立佞武多をめざして~グラデーションやってみよう~」

立佞武多の制作の中で、色付けのグラデーションが上手にできないという問題を克服するため、クロマトグラフィーなどの手法も用いて科学的な解決を目指した大変意欲的であった。

八戸高等学校「ツタの吸盤の成長過程について」

個人的な興味からの発想と鋭い洞察力が評価

### 【ブルーリボン賞】（アイデアや着眼点の優れた研究を表彰）

三本木高等学校の「歯医者数・逆歯医者数について」

難しいテーマへの挑戦が高評価

弘前中央高等学校の「嶽きみ由来の炭の作製と機能評価」

地域の特産物に着目して、環境問題との関わりなどが高評価

### 【光言賞】（表現力豊かで説得力のあるプレゼンテーションを行った研究を表彰）

青森高等学校「堤川の水質調査及び水質の改善について」

函館中部高等学校「函館近海の魚類から採取したマイクロプラスチックの調査」



これからも、ますます他校との交流を深めることができるように、コンテストを発展させて、生徒のみなさんの研究成果を発表する場を提供していきたいと考えています。



# 薬学教育センターサロン開設

薬学教育センター  
Pharmaceutical Education Center

OPEN



薬学教育センターは、地域に貢献する優秀な薬剤師を育成するという青森大学薬学部理念を達成するため、効率的な教育カリキュラムをサポートし、学生を支援するために設立されました。

例年、年明け頃から、国家試験を目前に控えた重圧から、焦りや不安を抱えた6年生は、勉強が手につかない状態になります。こうした不安を解消し、ほんのひと時

## 新任紹介

五月から教育センターに勤務しました。以前は、青森県薬剤師会に勤務してましたので、この経験を生かして、皆様の業務のお力になれるよう、一杯務めさせていただきます。



佐藤真理子

でも息抜きができる場所を提供したいと薬学教育センターサロンを開設しました。暖かい飲み物とお菓子を用意し、張り詰めた日常から離れ、雑談や残りわずかな試験までの過ごし方などのアドバイスなどを行いました。初めての試みではありましたが延べ66名の学生が利用してくれました。来年度も国家試験が近づく頃に開設したいと思います。



## 薬学部新規研究機器紹介

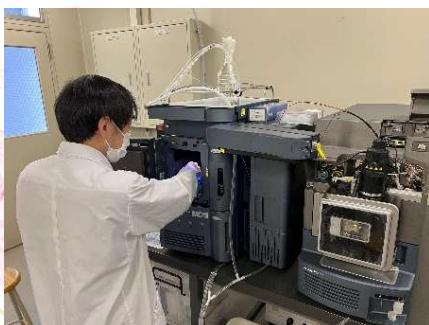
2023年2月、Waters社製液体クロマトグラフ質量分析計(LC/MS/MS)が導入されました。

これは超高速液体クロマトグラフィー(UPLC)で分離、精製した試料を、エレクトロスプレー法(ESI法)によりイオン化し、

タンデム四重極装置で測定することにより、複雑な試料においても高品質な定性、定量を可能とする装置です。この装置を用いると、例えば、血液中の薬物の分離し、定量することで血中濃度を測定する、といった分析が可能となります。この装置の導入により、薬学部の研究が大きく進展することとなり、より一層の発展が期待されます。



Xevo TQ-S micro



操作をする稲垣先生

## 「がん薬物療法認定薬剤師」の資格取得

この度、青森大学薬学部の卒業生 成田 芽生（なりた めい）先生が、「がん薬物療法認定薬剤師」の資格を取得されました。

今回の特集では、成田 先生が勤務する青森県立中央病院薬剤部 部長 山本 章二（やまもと しょうじ）先生と成田 先生へのインタビューを紹介します。



山本 章二

やまもと しょうじ

東京薬科大学卒。昭和63年に青森県立中央病院薬剤部に入職。青森県立中央病院で最初に「がん薬物療法認定薬剤師」の資格を取得し、東北でも東北大学病院に次ぐ外来化学療法の数誇る青森県立中央病院のがん薬物療法を切り拓いたパイオニア。現在、青森県立中央病院薬剤部 部長。



成田 芽生

なりた めい

青森大学薬学部卒（7期生）。在学中は、佐藤昌泰先生の研究室に所属。平成28年に青森県立中央病院薬剤部に入職。令和4年10月1日、青森県立中央病院では3人目となる「がん薬物療法認定薬剤師」の資格を取得。

—— 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。まず、この同窓会誌を読む方々のために、「がん薬物療法認定薬剤師」とは、そもそもどのようなものなのか教えていただけますか。

## 成田先生

薬剤師に高度な知識や技術を身につけさせ、年々増え続けるがん患者さんに対し、より有効で安全な治療が行えるよう、一般財団法人日本病院薬剤師会が設けた薬剤師の認定資格になります。

## 山本部長

「がん薬物療法認定薬剤師」になるためには、満たさないといけない条件が色々あるんですが、その中でも、

- ・がん患者さんへの薬剤管理指導の実績が50症例以上あること
- ・日本病院薬剤師会が行う認定試験に合格すること

という、この2つの要件が、「がん薬物療法認定薬剤師」を目指す薬剤師にとって、非常に高いハードルとなっています。

## 成田先生

いや～、それは本当にそのとおりでした。私も症例を50も集めるのに非常に苦労しました（苦笑）。

がん患者さんに対して行った服薬指導の内容や、薬剤師として医師に行った薬物療法に関する提案など、薬学的な介入実績を50症例まとめて提出するというものなんですが、これが本当に大変でした。ただ薬について説明を行うだけでいいのであればいくらかでも集められるんですが、チーム医療の中で、患者さんや医師を含めた医療スタッフにとって、有意義な介入を行えるケースというのは、そうあるものではないんです。さらに、この症例への審査というのも非常に厳しくて、私も提出した症例が審査で弾かれてしまったというのを経験しています。

すみません。ちょっと力が入ってしまいました（笑）。この大変さというのは、やったことのある人でないとなかなかわかってもらえないことが多くて、うまく説明しようとしたら、熱くなってしまいました。

—— いえ。インタビューの開始早々に、成田先生の緊張をほぐすことができてよかったです (笑)。

### 山本部長

そうそう。成田芽生には、このように意外な一面があるんです。初めて会った時の印象は、少し、いや大分おっとりしているな、という感じでした。あっ、これは悪い意味ではなく、派手なことや目立つことをせず、あくまで清楚で控えめな雰囲気という意味です。ところが、周りの人の話によると、成田芽生は、言うことを聞かない後輩がいた時には、厳しく接しているようで、言うべきことは言うし、熱くなるべきところでは熱くなる、らしいです (笑)。

認定資格を取得することの大変さの話で補足すると、薬剤師の認定制度には、「感染制御認定薬剤師」や「緩和薬物療法認定薬剤師」など様々ありますが、「がん薬物療法認定薬剤師」は特に取得が難しいものとなっています。県内の他の病院にも、この資格を取ろうと必死に頑張っている薬剤師がたくさんいますが、実際に資格を取得できている薬剤師は少ないですね。

今回、成田芽生が資格を取得できたことで、すでに資格を取得しているもう1人の薬剤師と合わせて、「がん薬物療法認定薬剤師」が2人体制となったことは、病院にとっても非常に大きかったですね。

—— ありがとうございます。お二人にここまでご説明いただいたので、同窓会誌を読んだ方々にも、「がん薬物療法認定薬剤師」になることの大変さが伝わるかと思います (笑)。

では、山本部長にお聞きしますが、なぜ成田先生に「がん薬物療法認定薬剤師」の資格を取得してもらおうと思ったんですか。

### 山本部長

まず、普段から、薬物療法に真剣に取り組んでいて、患者さんに対しても非常に親身になって接しているところですね。

私も、「がん薬物療法認定薬剤師」とし

て、がん治療に携わってきた経験があるのでわかるのですが、がん治療には薬とヒト、両方に精通する人材が必要不可欠です。

成田芽生は、がん治療においてアドヒアランスの向上が重要だということを理解していて、患者さんに対し、薬物療法に関する説明や指導をしっかりと行っています。

さらに、がん薬物療法において避けて通れない副作用のフォローに対しても、解決策の提案をしながら、薬物療法のみならず、社会的、精神的にも健やかに生活できるような支援を行っています。

「がん薬物療法認定薬剤師」として、人間性に秀でた人材を探した時に、成田芽生ということになりました。

すみません。私も、成田芽生につられて、熱が入ってしまいました (笑)。

—— では次に、成田先生にお聞きします。成田先生は、なぜ「がん薬物療法認定薬剤師」を目指そうと思ったのですか。いやっ、そもそもなぜ青森県立中央病院で働きたいと思ったのか、というところから聞きたいです。

すみません。なんか私も皆さんにつられて熱が入ってきちゃいました。

### 成田先生

実は、学生時代には、そこまで病院薬剤師になりたいという思いはなかったんです。

当時は、薬剤師として色々な仕事ができたらいいなという思いがあって、それで青森県立中央病院やつくしが丘病院、県内の各保健所、県庁等、薬剤師として活躍ができる場所が多岐にわたる県職員に魅力を感じて、県職員になりました。そしたら、配属された場所が、青森県立中央病院だったというのが正直なところですよ。

ただ実際に働いてみたら、青森県立中央病院は「都道府県がん診療連携拠点病院」になっていて、ものすごくがん治療に力を入れている病院でした。しかも、同じ職場には、「がん薬物療法認定薬剤師」の資格を取得した方が、山本部長を含め、2人もいらっしやって、そういう方々と一緒に働

くうちに、自分もがん治療に携われる薬剤師になりたいという想いが芽生えて、山本部長の後押しもあり、「がん薬物療法認定薬剤師」を目指すことになりました。

— 「がん薬物療法認定薬剤師」になって、今はどのような仕事をされているんですか。

### 成田先生

特に、「がん薬物療法認定薬剤師」になる前と後で仕事の内容は変わってはいないんです。

山本部長がおっしゃっていたように、がん薬物療法はアドヒアランスの向上が重要となりますので、がん薬物療法を受けられる患者さんに対して、薬の説明というのもしっかりとやっています。

あとは、「がん薬物療法認定薬剤師」になるために勉強した知識を活かして、患者さんの状態に合わせた薬の投与量や投薬スケジュールの作成などを行っております。

ただ、「がん薬物療法認定薬剤師」となったことで、チーム医療の中において、医師や看護師などの医療スタッフからだけでなく、患者さん達からも自分に対する期待みたいなものが、ものすごく増したことのように感じています。それだけに、そうした期待に応えられるよう、さらに研鑽を積んでいかなければいけないと身が引き締まる思いがしています。



写真1. 薬の投与量や投与スケジュールの確認

— ありがとうございます。山本部長から、成田先生に、今後期待することやアドバイス等があれば、ぜひお願いします。

### 山本部長

がん薬物療法は副作用が必発です。成田芽生には、これまで通り、薬剤師として副作用を早期に発見し、患者さんの不安を和らげ、患者さんが安心して治療を継続できるようなサポートをしていって欲しいですね。

また、薬剤部の中では、後輩の指導ですね。「がん薬物療法認定薬剤師」となったことで、後輩たちからの信頼は増えています。今後、色々なところで、相談やアドバイスを求められることが増えると思います。後輩への指導というのは、指導する側も成長の機会となります。後輩達への指導のため、これまであいまいだったところをきちんと説明できるよう自分なりに整理することで、新たな気づきを得ることもあります。そして、私自身の経験から言えることなのですが、指導に悩み、考えることで人間的にも一皮むけることができますし、同時に今まで先輩や上司がどれだけ分かりやすく説明や指示をしてくれていたのかを実感し、感謝の気持ちも湧いてくるかと思います。

あとは、仕事以外のところで、リフレッシュをしっかりとすることですね。がん薬物療法に携わることは、やりがいもある一方で、辛いことや大変なことも多いです。リフレッシュのためにも、仕事以外のところでも、何か自分のための目標を持って欲しいと思います。

そんな私は、「ミスター跳人グランプリ」が目標。

— ありがとうございます(笑)。

ちょっと、思い出したのですが、山本部長は、以前放送された「テレビ診察室」という番組で、県民向けに「がん化学療法の副作用対策」について紹介されていたかと思います。その中で、最後の自己紹介の際に、趣味はスキーであるとおっしゃっておられて、一緒に出演していたアナウンサーから、

スキーが上手いのか聞かれて、「はい」と即答されておられましたよね。同じ質問をしてしまうのですが、山本部長はスキーがお上手なんですか。

### 山本部長

はい。  
あははは（笑）。

—— ありがとうございます（笑）。  
あっという間に時間となってしまいましたが、最後に、成田先生から、青森大学にメッセージがあればお願いします。

### 成田先生

6年間、本当に丁寧に御指導いただき、ありがとうございました。在学中、佐藤昌泰先生の研究室で、浮遊粒子状物質の分布を研究するため、県内各地を廻っていたことがつい昨日のことのようです。

先生方の御指導のおかげで薬剤師となり、今はこうして「がん薬物療法認定薬剤師」になることが出来ました。このことが、同じように認定薬剤師や専門薬剤師を目指す後輩たちにとって、少しでも励みとなってくれたらと思っています。

青森県はまだまだ薬剤師不足が深刻です。今後も1人でも多くの薬剤師の輩出をお願い致します。

—— 本日は長時間にわたり、どうもありがとうございました。



写真2. インタビューに応じる山本部長（右）と成田先生（左）。終始、和やかな雰囲気でお話いただき、ありがとうございました。

### interviewer

千葉 佳友（ちば よしとも）

旧姓：塩崎。青森大学薬学部卒（1期）。  
大学卒業後、青森県職員に採用され、現在は、弘前保健所に勤務。

## 佐藤昌泰先生からのメッセージ

成田芽生先生…いや、成田さん（当時の呼び方になることをお許してください）、  
「がん薬物療法認定薬剤師」の取得、誠に  
おめでとうございます！激務の現場をこな  
しながらの取得は本当に大変だったでしょ  
う。それだけに、今回得られたこの成果は  
本当に素晴らしいことだと思っています。

成田さんは、普段からやるべきことを  
黙々と進める学生でした。研究室に配属さ  
れた後も、打ち合わせた内容に従って作業  
を着実にこなす様子が見られました。また、  
ただでさえ指示が少ない私の指示内容を、  
行間を察するか如く適切に埋めながら、き  
ちんと進めておりました。これは成田さん

が、常日頃からその時すべきことを冷静に  
判断しながら遂行できる性格だからこそ  
その成果だと思っています。これからも  
激務が続くと思います。そんなときには  
心と身体を労りながら、自分を高めて  
いってください。

准教授 佐藤 昌泰（さとう まさやす）

地球環境科学博士（北海道  
大学）。青森大学に薬学部  
が開設した平成16年から同  
学部在籍。専門は、環境  
分析学、古海洋学。



## 卒業生のみなさまへ

ご卒業おめでとうございます。

これからの活躍をご祈念申し上げます。

本学としても皆様が地域医療に貢献することを期待すると共に、誇りに思います。

時々には大学を思い出してください。そして、大学を訪れてください。みなさんの、社会人となった皆様の活躍を聞かせてください。また、大学は情報の宝庫でもあります。喜び、悩み、さまざまな人生の葛藤を経験しながら成長したみなさまの、さらなるステージアップへの情報提供もできるでしょう。

青森大学で学んだ学生として暖かく迎えますので、いつでもお越し下さい。

また、職場や住所等が変更になりました場合もお知らせいただければ幸いです。

それでは、みなさまと過ごした6年間はかけがえのないものでした。薬剤師として大きな飛躍を祈念申し上げます。



### 【編集後記】

創刊第2号を発刊する運びとなりました。これも同窓生の皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。  
新型コロナウイルスも5類への移行に目処がつき、with コロナからafterコロナの時代にステージは移ります。今号は卒業生へのエールの号として、卒業式の記念品と共にお渡しすることができました。

afterコロナの時代へ向けた新たな卒業生と同時に同窓会員となりました皆様、卒業おめでとうございます。

そして、地域医療の担い手として活躍することを願ってやみません。

(老生)